転勤のある人生を選択する

福井県総務部長
鷲頭 美央 WASHIZU Mio

平成 15年 4月 総務省採用
同 自治行政局行政課
平成 15年 8月 山梨県総務部市町村課
平成 17年 4月 総務省大臣官房管理室公益法人行政推進室
平成 18年 4月 同 自治財政局地方債課
平成 19年 8月 同 自治財政局地方債課収益事業係長
平成 20年 7月 米国留学（コロンビア大学）
平成 22年 7月 高知県総務部政策企画課企画監（政策推進担当）
平成 23年 4月 同 地域福祉部地域福祉政策課長
平成 23年 9月 同 総務部財政課長
平成 25年 4月 総務省自治財政局地方債課課長補佐
併任 自治財政局財務調査課課長補佐
平成 26年 6月 筑波大学図書館情報メディア系准教授
平成 28年 4月 総務省政治資金適正化委員会事務局参事官補佐
平成 29年 4月 自治体国際化協会交流支援部長
平成 30年 4月 総務省自治税務局企画課課長補佐
平成 31年 4月 同 自治税務局固定資産税課理事官
令和 2年 4月 さいたま市財政局長
令和 4年 4月 現職

２０年目のチャレンジ

令和４年４月、入省２０年目にして、思い切ったチャレンジをしました。それは子連れ単身赴任で、福井県の総務部長として働くという挑戦です。

県の総務部長は、人事・財政といったリソースマネジメントの統括や議会対応など、いわば県政運営の要ともいえる重要な責務を担っています。冷静に物事を見つめ、厳しい局面ほど調整能力が求められる仕事です。この重責に１００％向き合うと同時に、新たな環境での子育ても一人で背負うこととなりました。

新しい働き方

全力で仕事をし、定時で帰宅し子供を迎えるためには、自分だけでなく、県庁全体の意思決定プロセスの合理化や迅速化が不可欠です。福井県では、杉本知事が率先して働き方改革を実行されており、打ち合わせや会議はすべてウェブ、待ち時間などはほぼゼロ、在宅や出先でもすべての仕事を実施できます。こうした環境の下、時間内に必要な意思決定を過不足なく行えるよう、論点を見極め、正しくコミュニケーションをとることに日々集中力を注いでいます。人口が減少する中、地域社会の担い手は一人何役もこなすことが求められており、一人ひとりの生産性を高める働き方の実現は喫緊の課題です。自らの働き方改革を実践しながら、これからの地域社会のマネジメントの在り方を模索しています。

「現場」って本来の職場

福井県ではこの標語のもとに、自分にとっての現場がどこか確認しながら仕事をしようと職員に呼びかけています。

私が転勤を決意したのも、総務省にとっての現場の一つは地方だからです。国の政策には、それを実行・実現する現場が必ずあり、現場を起点に考えることで、様々な課題解決の切り口をより多く見つけることができると感じています。だからこそ、実際に地域にどっぷりとつかりながら、地域課題に向き合う時間は貴重なチャンスです。人それぞれ悩みが違うように、地域によっても課題は異なります。課題の本質を現場から学び取り、他地域へ波及させていく、異なる経験を持ち寄り国の施策に反映させていく、これが総務省の強みであり面白さです。

コロナ禍を契機に、転勤しなくともできる仕事も増えてきましたが、だからこそ転勤のある人生を選択するというのは、とてもエキサイティングなことだと思いませんか。ぜひみなさんにも経験してもらいたいです。

予算の知事査定の様子

福井の子育て環境は最高です

国際公務員とは

パリのOECD事務局で国際公務員として勤務しています。情報通信技術やインフラに関する最新トレンドをリサーチしてOECDメンバー国に情報提供する、いわば国際コンサルです。

総務省時代は常に日本の立場で物事を考えることを求められていましたが、今はグローバルに不偏不党が求められる国際公務員。一見立場が逆転しているようですが、意外とそうでもありません。情報通信技術が変えていく社会の最前線に携わりたいという思いで総務省に入省した自分にとっては、そのフィールドが日本から世界に少し変わっただけ。自分が好きな『スタートアップ』という海外ドラマで、"Make the world a better place"というフレーズが意識高い系ワードのネタとして何度も繰り返されるくだりがあるのですが、そんなネタをベタにやっていくような、すこしこそばゆい面白さがここにはあります。

国際公務員という立場から日本の政策を見ると、強みと弱点の輪郭がクリアに見えてきます。例えば、現在OECD事務局でリサーチを担当している光ファイバーや5Gといったインフラ面では、日本では非常に高いレベルのインフラが整備されていることを改めて実感します。一方で、環境・持続可能性への配慮や経済安全保障といった新たなトレンドへの対応が新たな課題として浮かびあがります。また、赴任前に総務省でインターネット上の誹謗中傷や偽情報対策に携わっていた際も先行する欧州の政策動向を常に追いかけていましたが、他国から学ぶべきことはまだまだあると感じています。

職場環境が不安なあなたへ

近年霞が関の働き方に焦点が当たることも多く、皆さんの中には不安を持っている方もいると思います。しかし、総務省の環境は明らかに変わり始めています。そういう状況の中で、家族・友人との時間やダイバーシティの尊重など、パリやOECDの文化から学べることがたくさんあると感じています。海外や地方など霞が関以外の場所で活躍する機会が多くあるからこそ、世界を変えるために働くだけでなく、自分自身も総務省も変化していける。そのために今自分はここにいると思っています。

skiing in the Alps

同僚とOECDオフィスの横の公園でpicnic

Make "the world" a better place

経済協力開発機構（OECD）
ポリシーアナリスト
中川 北斗 NAKAGAWA Hokuto

平成 25年 4月 総務省採用
同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課
平成 26年 7月 同 行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室
平成 27年 8月 同 大臣官房秘書課
平成 28年 8月 同 情報流通行政局情報通信作品振興課流通調整係長
平成 30年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第二課
課長補佐
令和 3年 8月 現職